

考古展

第 6 回

小 さ な 展 覧 会

—昭和61年度発掘調査の成果から—

1 9 8 7 ・ 8

財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター



鏡形土製品（野崎古墳群）



家形埴輪（野崎古墳群）



貼り石のある方形周溝墓（志高遺跡）

昭和61年度の発掘調査概要

昭和61年度の調査は、国営農地造成・道路建設・団地造成工事に伴うものが例年に比べ多かったようです。国営農地造成に伴うものとしては、高山古墳群・西小田古墳群・ゲンギョウの山古墳群などが、道路建設に伴うものとしては平山城館跡・野崎古墳群・千代川遺跡などがあります。栗ヶ丘古墳群・瓦谷遺跡は団地造成に伴うものでした。いずれもこの冊子に紹介していますように貴重な成果を得ています。なかでも、野崎古墳群は、前方後円墳1基と円墳5基からなる古墳群であることがわかり、周溝からは円筒埴輪や家形埴輪などとともに鏡形土製品や獣を模した小形の土製品など珍しい遺物が出土しました。

このほか、河川改修に伴って調査を実施した志高遺跡では、弥生時代中期に造られた貼り石のある方形周溝墓が見つかりました。また、京都市域で実施した尊勝寺跡の調査では、観音堂と推定される大きな瓦葺礎石建物が見つかり、平安京跡でもたくさんの遺構が見つかりました。

このように、昨年度はこれまで以上に大きな成果が得られました。今後も発掘調査によって京都府下の歴史や文化がより一層明らかになっていくものと思われます。



第5回 小さな展覧会風景

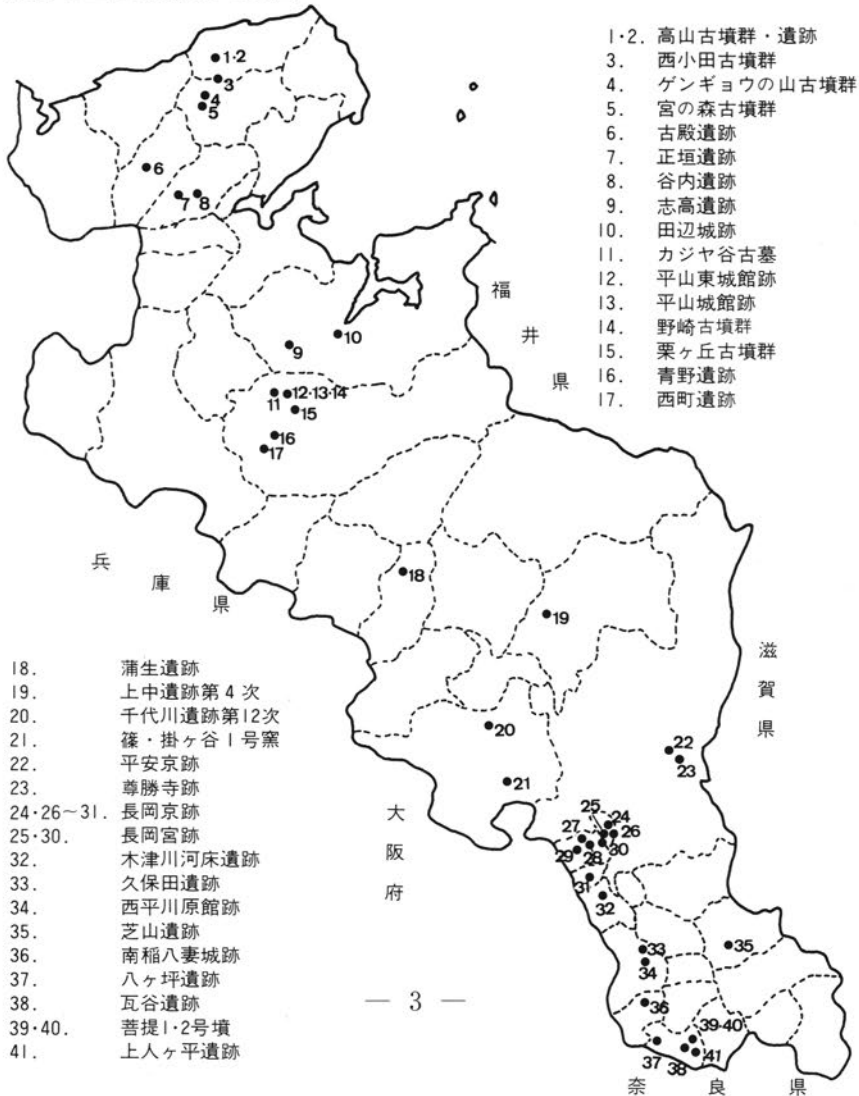
昭和61年度発掘調査一覧表

(財)京都市埋蔵文化財調査研究センター調査

番号	遺跡名称	種別	所在地	担当者	調査期間	概要
1	高山古墳群	古墳	丹後町大字徳光小字高山	増田 孝彦 三好 博喜	61. 7. 19 ～62. 3. 14	円墳4基(横穴式石室)
2	高山遺跡	散布地	丹後町大字徳光小字高山	増田 孝彦	61. 8. 20 ～62. 3. 14	竪穴住居跡 中・近世墓
3	西小田古墳群	古墳	丹後町西小田・弥栄町国久	三好 博喜	61.11.20 ～62. 1. 22	円墳2基(木棺直葬) 土壇
4	ゲンギョウの山古墳群	古墳	弥栄町大字鳥取小字ゲンギョウ	三好 博喜	61. 6. 4 ～61.10. 2	円墳8基(木棺直葬7基, 横穴式石室1基)
5	宮の森古墳群	古墳	弥栄町大字鳥取小字宮ノ森	増田 孝彦	61. 4. 24 ～61. 7. 19	円墳4基(木棺直葬)
6	古殿遺跡	集落跡	峰山町字古殿	鍋田 勇	61. 8. 4 ～61.12. 2	古墳時代前期の溝
7	正垣遺跡	集落跡	大宮町奥大野正垣	竹原 一彦	61. 4. 14 ～61. 7. 13	弥生時代後期の溝、古墳 平安時代の掘立柱建物跡
8	谷内遺跡	集落跡	大宮町谷内	藤原 敏晃 鍋田 勇	61. 5. 8 ～61. 6. 26	弥生時代後期の溝
9	志高遺跡	集落跡	舞鶴市字志高	肥後 弘幸 三好 博喜	61. 4. 14 ～62. 3. 20	貼り石方形周溝墓(弥生時代中期) 竪穴住居跡 奈良・平安時代掘立柱建物跡
10	田辺城跡	城館跡	舞鶴市北田辺小字追手前	小山 雅人 田中 彰	61.10.23 ～61.10.30	顕著な遺構なし
11	カジヤ谷古墓	古墓	綾部市七百石町カジヤ谷	細川 康晴	62. 1. 29 ～62. 2. 14	積石遺構
12	平山東城館跡	城館跡	綾部市七百石町	藤原 敏晃	61. 9. 17 ～62. 3. 20	柱穴・土塁・濠
13	平山城館跡	城館跡	綾部市七百石町	藤原 敏晃	61.11. 1 ～62. 3. 20	礎石・土塁・竪濠
14	野崎古墳群	古墳	綾部市高槻町	小山 雅人	61.11.28 ～62. 3. 24	前方後円墳1基 円墳5基
15	栗ヶ丘古墳群	古墳	綾部市小呂町田坂	引原 茂治	61. 7. 2 ～62. 3. 23	円墳9基(木棺直葬)
16	青野遺跡	集落跡	綾部市青野町吉美前	西岸 秀文	61.12. 3 ～62. 3. 20	竪穴住居跡・溝・土壇
17	西町遺跡	集落跡	綾部市西町	西岸 秀文	61. 5. 27 ～61. 9. 12	竪穴住居跡 掘立柱建物跡
18	蒲生遺跡	集落跡	丹波町蒲生	森下 衛 西岸 秀文	61. 8. 25 ～61.10. 9	土壇
19	上中遺跡第4次	集落跡	京北町下弓削	岡崎 研一	61. 8. 11 ～61. 9. 30	顕著な遺構なし
20	千代川遺跡第12次	集落跡	亀岡市千代川町	森下 衛	61. 5. 12 ～61.12. 6	掘立柱建物跡
21	篠・掛ヶ谷1号窯跡	窯跡	亀岡市篠掛ヶ谷	岡崎 研一	61. 4. 24 ～61. 6. 9	顕著な遺構なし
22	平安京跡	都城跡	京都市上京区烏丸通中立売上ル龍前町	伊野 近富 石井 清司	61.10. 6 ～62. 3. 20	住居跡・井戸・石組遺構
23	尊勝寺跡	寺院跡	京都市左京区岡崎西天寺町	竹原 一彦	61. 7. 10 ～61. 7. 20 61. 9. 1 ～61.12. 6	尊勝寺観音堂跡(推定)
24	長岡京跡左京第160次	都城跡	向日市森本町	竹井 治雄	61.10.18 ～61.12. 3	長岡京期の溝
25	長岡宮跡第172次	都城跡	向日市上植野町上川原	竹井 治雄	61. 4. 17 ～61. 6. 24	顕著な遺構なし
26	長岡京跡左京第151次	都城跡	向日市鶴冠井町清水ほか	村尾 政人	61. 4. 30 ～61. 8. 30	長岡京の道路側溝 弥生時代の土壇
27	長岡京跡右京第240次	都城跡	長岡京市井ノ内朝日寺	石尾 政信	61. 9. 11 ～61.11.17	長岡京期の井戸
28	長岡京跡右京第251次	都城跡	長岡京市粟生川久保・畑ヶ田	石尾 政信	61.12. 9 ～62. 3. 14	古墳時代後期の土壇・溝 平安～中世の柱穴
29	長岡京跡右京第255次	都城跡	長岡京市粟生川久保	石尾 政信 細川 康晴	62. 2. 6 ～62. 3. 20	柱穴
30	長岡宮跡第185次	都城跡	向日市上植野町	竹井 治雄	62. 1. 26 ～62. 3. 12	旧流路

番号	遺跡名称	種別	所在地	担当者	調査期間	概要
31	長岡京跡(立会)	都城跡	向日市ほか	辻本 和美	61.10.23 ～62. 3.16	顕著な遺構なし
32	木津川河床遺跡	集落跡	八幡市八幡一丁目ほか	岩松 保	61. 5.23 ～62. 2.24	弥生時代の竪穴住居跡 土壇 中世素掘り溝
33	久保田遺跡	散布地	田辺町大住字久保田ほか	黒坪 一樹	61.11. 7 ～62. 2. 6	—————
34	西平川原館跡	城館跡	田辺町三山木字西平川原	石井 清司 黒坪 一樹	61. 7. 7 ～61. 7.12	—————
35	芝山遺跡	集落跡 古墳	城陽市大字寺田小字南中ノ芝	小池 寛	61. 5. 6 ～61. 9. 2	—————
36	南稲八妻城跡	城館跡	精華町南稲八妻	石井 清司 黒坪 一樹	61. 8. 2 ～61. 9.25 62. 2.25 ～62. 3.19	顕著な遺構なし
37	八ヶ坪遺跡	散布地	木津町大字相楽小字八ヶ坪	松井 忠春 荒川 史	61. 8.25 ～61.12.10	古墳時代・中世の溝状遺構
38	瓦谷遺跡	散布地	木津町大字市坂小字瓦谷	戸原 和人 伊賀 高弘	61. 6. 2 ～62. 3.18	方墳・溝
39	菩提1号墳	古墳	木津町大字市坂小字向上	荒川 史	61.10. 4 ～61.11.26	顕著な遺構なし
40	菩提2号墳					
41	上人ヶ平遺跡	集落跡	木津町大字市坂小字上人ヶ平	戸原 和人 荒川 史	61.12.11 ～62. 3.14	古墳時代前期の竪穴住居跡

展示品出土遺跡分布図





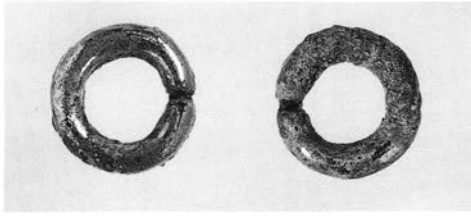
高山3号墳・石室検出状況

〔遺跡の概要〕

高山古墳群は、丹後町徳光にある後期古墳群です。丘陵全体が開墾を受けていますが、これまでに12基の古墳があることがわかっています。このうち1～6号墳と古墳周辺に広がる集積・積石部分、丘陵最高所にある平坦な部分を調査しました。1・2号墳を京都府教育委員会が、残りを当調査研究センターが分担して調査しました。

古墳はいずれも横穴式石室を内部主体としています。開墾によりほとんど壊された古墳もありましたが盗掘を受けた痕跡はなく、どれも埋葬した時のようすをよく保っています。特に、3号墳は石室の天井が完存しており、閉塞石もそのまま残っているなど状態がいちばん良好でした。玉や鉄器、土器などがたくさん出土しています。築造された時期はどれも6世紀後半です。

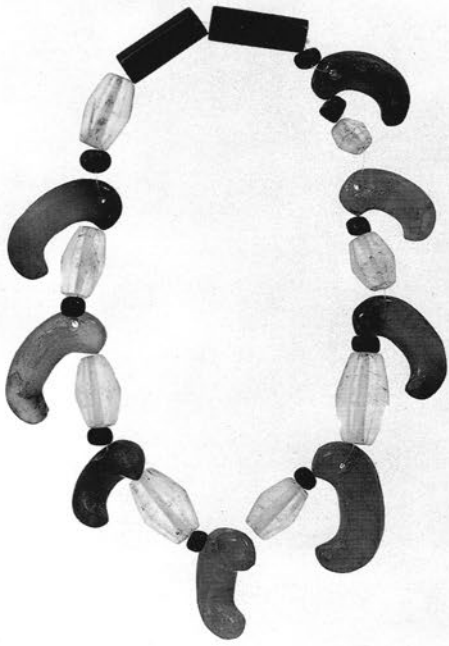
集石は、火葬や土葬墓の墓標のようなもので、その下には安土・桃山時代から江戸時代にかけての土壇がたくさん見つかりました。丘陵最高所からは、石組のカマドをもつ古墳時代の住居跡が1基見つかりました(高山遺跡)。古墳群との関係が注目されます。



1. 金環



3. 高山遺跡・カマド検出状況



2. 玉類



4. 高山3号墳閉塞



5. 鉄刀



6. 須恵器 各器種

にしこだ
西小田古墳群

弥生時代・古墳時代
丹後町西小田・弥栄町国久



西小田4・5号墳全景

〔遺跡の概要〕

西小田古墳群は、弥栄町と丹後町との境にあり、竹野川を眼下に望む丘陵上に立地しています。2基の古墳を調査しました。いずれも尾根を削り出して古墳の形を方形に整えています。盛土はほとんどみられませんでした。埋葬施設は各古墳に1基ずつありました。墓壇を掘って木棺を安置したものです。

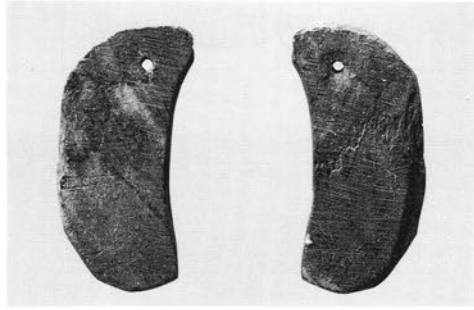
4号墳には須恵器の杯身1点が副葬されていました。古墳の造られた時期は7世紀前半頃と考えられます。

5号墳には、須恵器の甕2点、滑石製勾玉1点、鉄剣1点が副葬されていました。甕は丹後地域では最も古い時期に属するものです。古墳の造られた時期は5世紀後半頃と考えられます。

古墳のほかにも、弥生時代の終り頃の土器棺墓が1基見つかっています。また、古墳の裾まわりからも土器棺と同時期の土器片が多数出土していることから、もともとは弥生時代の墓地であったところを後に古墳として利用したものと思われる。



7. 弥生土器・把手のある鉢



11. 滑石製勾玉



8. 弥生土器・鉢



12. 須恵器・杯身



9. 弥生土器・器台



13. 須恵器・甕



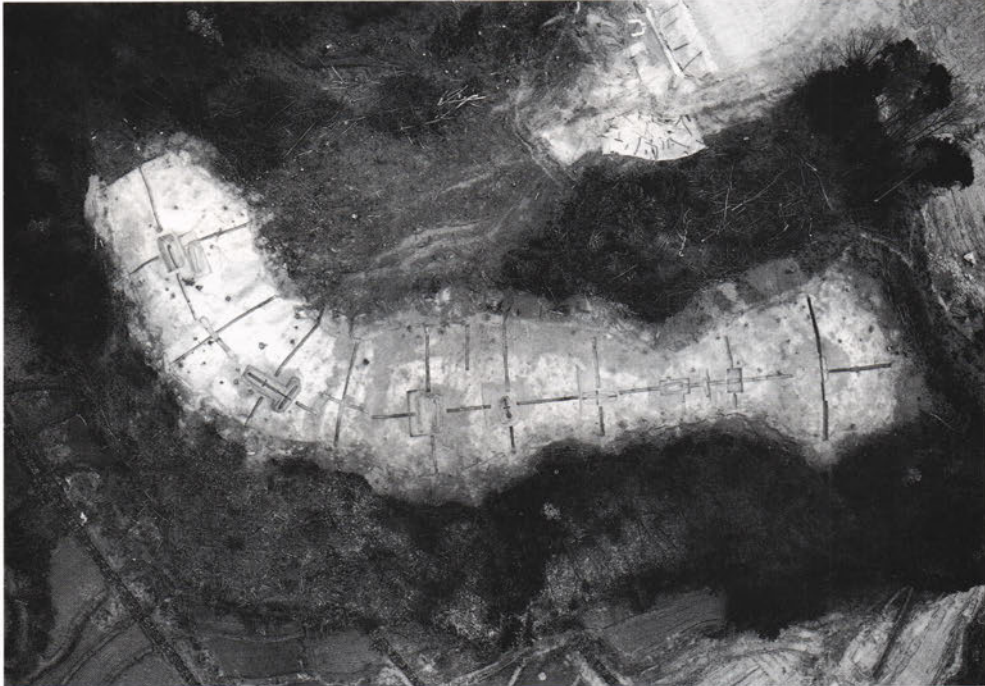
10. 弥生土器・甕



14. 須恵器・甕

ゲンギョウの山古墳群

古墳時代
弥栄町字鳥取



ゲンギョウの山古墳群全景

〔遺跡の概要〕

弥栄町から網野町にぬける道沿いに鳥取の集落があります。ゲンギョウの山古墳群は、この集落の北側にある丘陵上に立地しています。尾根の稜線上にならぶ8基の古墳を調査しました。

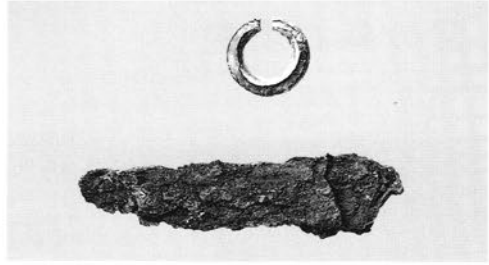
1号墳は丘陵先端部の斜面に造られた小さな横穴式石室墳です。石室は奥壁に段がつくられた特殊なもので「雛壇付石室」と呼ばれています。副葬品は金環と刀子だけが見つかりました。古墳時代の終り頃に造られたものと思われます。

2号墳から8号墳、計7基の古墳は尾根上に立地しています。いずれも、尾根を削り出して古墳の形を整えており、盛土はほとんどありませんでした。埋葬施設は、どの古墳も一か所ないし二か所で、墓壇を掘って木棺を安置したものでした。鉄製品や土器、玉類などがごく少量副葬されていました。これらは4世紀後半から5世紀前半に造られたものと思われます。

古墳のほかにも、土器棺墓2基や火葬墓4基などが見つかっています。



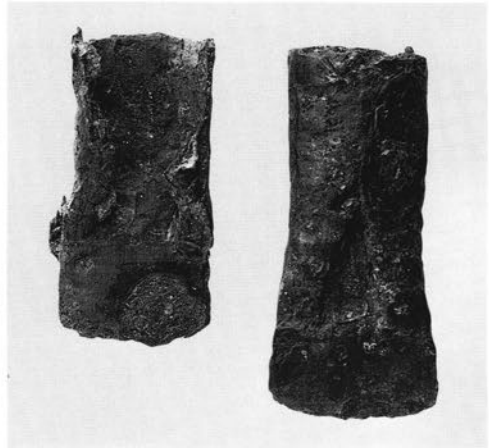
15. 土師器・高杯



18. 金環・刀子



16. 土師器・壺



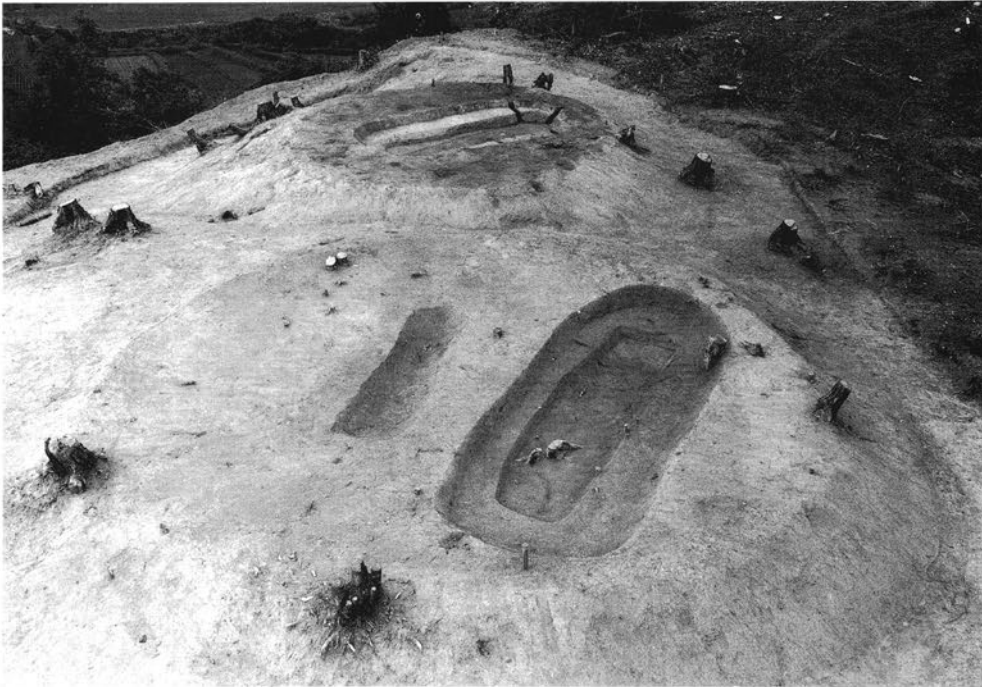
19. 鉄斧



17. 土師器・壺



20. 土師器・壺



宮の森1・2号墳全景

〔遺跡の概要〕

宮の森古墳群は、弥栄町鳥取にあります。丘陵全体で8基の古墳が確認されていますが、このうち調査を行ったのは1～4号墳までです。いずれも、木棺直葬の土壇墓です。

1・2号墳は、各々2か所ずつの埋葬施設が見つかり、組合式木棺が安置されていたと思われます。須恵器・土師器・鉄器が出土し、1号墳からは管玉9・紡錘車1も出土しています。出土した遺物から、6世紀前半頃に築造されたことが明らかになりました。

3・4号墳は、1・2号墳に比べ長大な墓壇で、大きな木棺が安置されていたようです。3号墳で4か所、4号墳で1か所の墓壇が見つかりました。遺物は、3号墳からは鉄器、4号墳からは鉄剣1と土師器甕片が出土しました。1・2号墳に比べ出土する遺物が少なく、まったく遺物がない墓壇もありました。

3・4号墳は、古墳の立地・墳丘・主体部の規模やそれに伴う遺物が乏しいことなどからすると、5世紀代に築造されたものと思われます。



21. 須恵器・杯蓋



26. 滑石製紡錘車



22. 須恵器・杯蓋



27. 土師器・杯



23. 須恵器・杯身



28. 鉄製品各種



24. 須恵器・杯身



25. 土師器・高杯



溝の検出状況

〔遺跡の概要〕

古殿遺跡は、丹後半島のほぼ中央部に位置しています。これまでに2度の調査が行われ、弥生時代後期から鎌倉時代まで営まれた集落であることが明らかにされました。

今回の調査地では、弥生時代後期から平安時代にいたるまでの各時期の溝が見つかるとともに多量の土器や木製品が出土し、集落のようすがより詳しくわかるようになりました。

見つかった溝のうち、集落の中を通過して、北東から南西に向かって流れる溝は、古墳時代の前期に土木工事が行われて整備されたものでした。この頃、古殿遺跡は集落として最も栄えていました。見つかった木製品も、ほとんどがこの時期に使われたものです。家を造るのに使った柱や板、水田や畑を耕した鋤、火を起こすための火鑽臼、物を入れた箱、お祭りに使われた舟など、当時の生活ぶりをうかがわせてくれます。

また、平安時代の土器の中で「今西」と墨書された須恵器碗も見つかっています。



29. 土師器・低脚付杯



33. 土師器・壺



30. 土師器・小形台付鉢



34. 土師器・甕



31. 土師器・壺



35. 土師器・壺



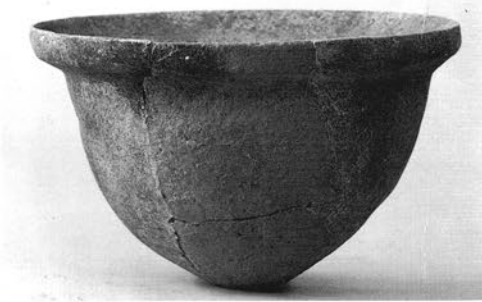
32. 土師器・器台



36. 弥生土器・蓋



38. 木製穂摘具



37. 弥生土器・鉢



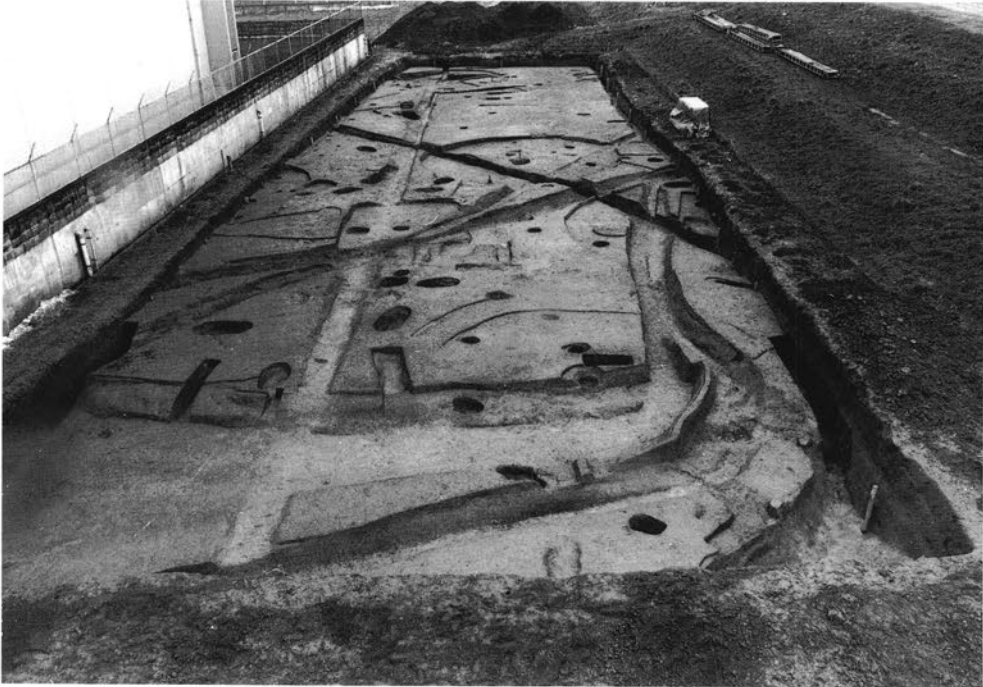
39. 弥生土器・高杯

〔遺跡の概要〕

谷内遺跡は、中郡大宮町にあって、竹野川右岸の低い丘陵の間の扇状地に位置しています。谷の両側に各時代の集落が営まれたと考えられていますが、今回の調査地は、東から西へと流れていた古代の川の跡を3条検出しました。そのうち1条では、弥生時代後期から古墳時代の初め頃の土器が多量に出土し、また、木製品や管玉などもありました。

土器は、丹後独特のものから畿内風のものへの変り目の頃の土器で、中には渦巻文をスタンプした珍しい器台形土器もあります。

弥生時代の稲刈りは、稲の穂だけを石庖丁と呼ばれる石器で摘みとっていましたが、今回、稲などの籾と同じ土層から木製の穂摘具(木庖丁)が出土しました。祭祀用の道具とする意見もありますが、最近では実用品と考えられています。当時の農村の生活をしのばせる遺物と言えましょう。



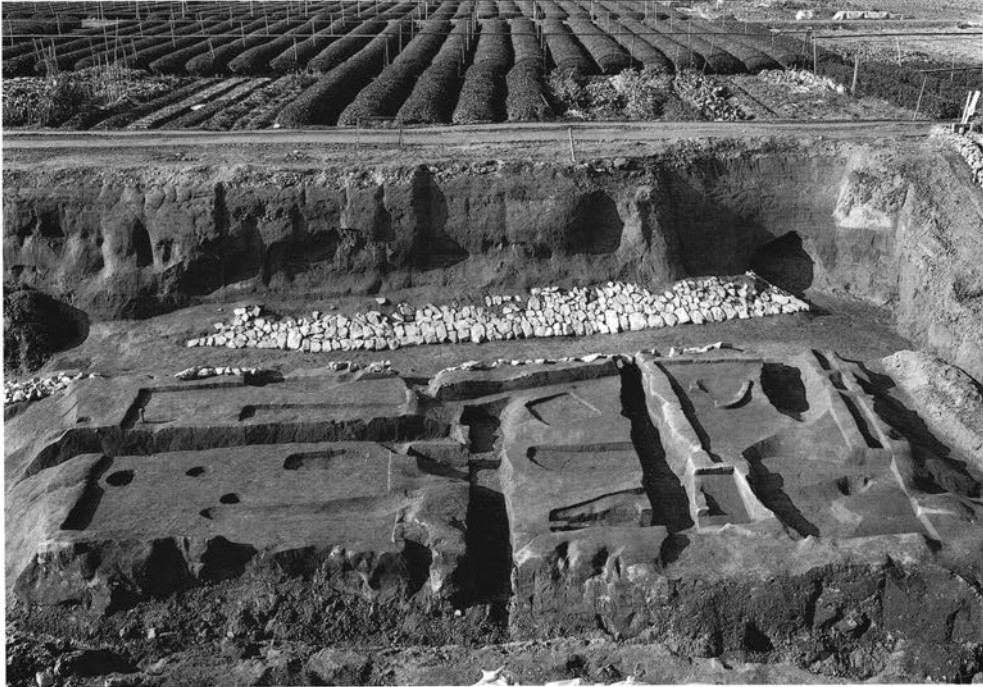
青野遺跡調査地全景

〔遺跡の概要〕

青野遺跡は、綾部市北方の由良川の自然堤防上に立地しています。過去10次に及ぶ調査により、弥生時代から中世にわたる大規模な複合集落遺跡であることが確認されています。

今回の調査は、青野遺跡の西端にあたり、面積700㎡たらずの調査地に、竪穴住居跡10基・土壇16基・溝跡11条などが重複して検出されました。出土遺物には、弥生式土器・土師器・須恵器・石器などがあります。特に、弥生時代中頃の土壇内より出土したサヌカイト製の石小刀は類例が少なく、貴重なものです。

出土遺物から検出した遺構の時期を与え当時のようすを推測すると、調査地は、弥生時代中頃には墓域として利用され、弥生時代後期には居住空間として、古墳時代以降は集落の縁辺地域として利用されていたことが考えられます。



貼り石のある方形周溝墓検出状況

〔遺跡の概要〕

志高遺跡は、由良川下流域の自然堤防上に立地する集落遺跡です。これまでに6次にわたって調査が行われ、縄文時代から江戸時代にいたる複合集落遺跡であることがわかっています。今回は7次調査にあたります。A、B、Cの3地区にわけて調査しました。

A地区では、地表下約6.5mまで掘り下げ、奈良時代、弥生時代、縄文時代の遺構を見つけました。縄文時代前期の遺構面では、竪穴住居跡、炉跡などの遺構やそれに伴う遺物等を検出しました。さらに下層からは縄文時代草創期の土器がたくさん見つかりました。弥生時代の住居跡からは半分に折られた石剣が埋納された状態で出土しました。

B地区では、全国的に類例の少ない弥生時代中期の貼り石のある方形周溝墓2基を検出しました。

C地区では、弥生時代後期～古墳時代前期の集落跡を検出しました。



40. 貼り石のある方形周溝墓から出土した土器群(弥生時代中期)



41. 有樋式磨製石剣



42. 縄文土器・深鉢(前期)



43. 縄文土器・深鉢(前期)

野崎古墳群

古墳時代
綾部市高槻町



野崎古墳群全景

〔遺跡の概要〕

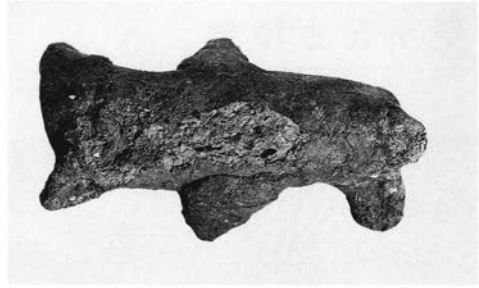
野崎古墳群は、綾部市高槻町の野崎遺跡の調査によって新たに発見された古墳時代中期末から後期にかけての古墳群で、小型の前方後円墳1基(5号墳)と円墳5基からなります。墳丘はいずれも後世の削平で消滅していましたが、周囲に設けられた周濠が検出されて、古墳群と判明したものです。

主体部は、4号墳でかろうじてその底の部分が鉄鏃3本とともに残っていただけですが、周濠に埋まった土の中から、1号墳では墳丘裾を取り巻いていた円筒埴輪群、3号墳では祭祀に使われた土製の馬・犬(?)・鏡などの模造品、4号墳では須恵器短頸壺と綾部市では初の出土となった家形埴輪、5号墳では市内では最古級の須恵器等が出土しています。

この古墳群は、由良川流域では最大級の前方後円墳である高槻茶白山古墳(中期後半)と上杉1号墳(後期中頃か、人物埴輪出土)との間の時期に位置づけられます。



44. 手づくね土器



48. 動物形土製品 (上から)



45. 馬形土製品 (横から)



49. 鏡形土製品



46. 須恵器・埴



47. 須恵器・埴



50. 円筒埴輪



栗ヶ丘古墳群全景

〔遺跡の概要〕

栗ヶ丘古墳群は、綾部市街地から北方約3.5 kmの丘陵地にあります。12基が残っており、そのうち11基を発掘調査しました。これらの古墳はすべて円墳で、直径約9 mから16 m程の規模があります。棺は木製と思われ、長方形の穴を掘って直接土の中に埋めています。1基の古墳に3基の棺が埋められているものもあります。また、古墳の周囲に溝を掘りめぐらしているものもあります。

須恵器・土師器などの土器類や刀・鏃などの鉄製品を副葬していました。碧玉製管玉や土製丸玉を副葬している古墳もあります。古墳の周囲をめぐる溝の底からお供え用とみられる土器が出土した古墳もあります。

副葬品の土器類からみて、これらの古墳は6世紀前半から後半にかけて次々につくられたと考えられます。この古墳群は、比較的短期間に形成された古墳群といえます。



51. 須恵器・杯蓋



56. 須恵器・罎



52. 須恵器・杯身



53. 土師器・杯



57. 須恵器・甗



54. 須恵器・有蓋高杯の蓋



55. 須恵器・有蓋高杯



58. 須恵器・甕

千代川遺跡

縄文時代～鎌倉時代
亀岡市千代川町北ノ庄



千代川遺跡第12次調査地全景

〔遺跡の概要〕

千代川遺跡は、過去12次にわたって発掘調査され縄文時代から鎌倉時代にいたる集落遺跡であることが確認されています。その範囲も亀岡市千代川町一帯に広がり、丹波国府推定地や桑寺廃寺も含み込んでいます。

これまでの調査では、弥生時代の方形周溝墓・竪穴住居跡をはじめ、奈良・平安時代の掘立柱建物跡、桑寺廃寺の一部などが見つかっており、弥生土器や墨書土器なども出土しています。今回の調査でも、これらの続きと思われる集落跡を見つけています。

今回の調査でわかったことで最も重要なことは、奈良・平安時代の建物跡は時代が新しくなるにつれて現在の地割(条里制のなごり)とされます)と同じ方向に近づいてくるということです。建物跡は国府の施設とするほど大きな規模ではありませんが、こういった建物の方向の変化が国府の設計とどのようにかかわっているのか、大きな疑問を投げかけた調査になりました。



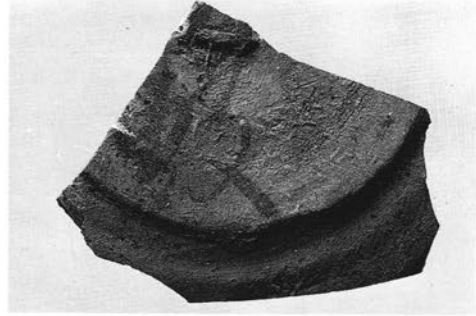
59. 須惠器・杯蓋



65. 石 匙



60. 須惠器・杯蓋



66. 墨書土器 (須惠器)



61. 須惠器・杯身



67. 弥生土器・鉢



62. 須惠器・杯身



63. 土師器・杯



64. 土師器・杯



68. 土師器・甕

平安京跡

弥生時代～江戸時代
京都市上京区



平安京跡遺構検出状況

〔遺跡の概要〕

調査地は、平安京の北東隅に当たります。平安時代には貴族が住んでいたようで、大きな井戸の埋土の中から、金を塗った緑釉陶器や、緑色の石鈿帯せきかたい(腰バンドの飾り)などの珍しい遺物が出土しました。また、「栗」という字を刻んだ瓦もあります。

各時代のさまざまな生活跡や物品が発見されましたが、その中でも、安土・桃山時代のそれは一見に価値があります。この時期に町屋を壊し、その後に金箔瓦を葺いた大名屋敷が建設されたことが判明しました。容器も唐津焼や美濃・瀬戸焼を始め中国製品もあり、多彩を極めていきます。また、銅製品をこの地で鑄造していたこともわかりました。

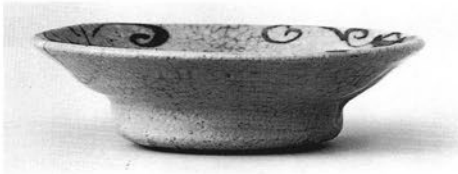
江戸時代の一時期は、京焼きの一種である御菩薩池焼の窯があったらしく、1つの土壇から窯道具や製品が発見されました。このほか、縄文時代晩期から弥生時代前期の遺物(石鏃・石庖丁・土器など)もあったので、2千数百年前からの人の住んだ痕跡を辿ることができました。



69. 緑釉陶器



73. 志野皿



70. 志野鉄絵皿



74. 志野菊花皿



71. 天目茶碗



75. 唐津皿



76. 軒平瓦



72. 須恵器・瓶



77. 軒丸瓦

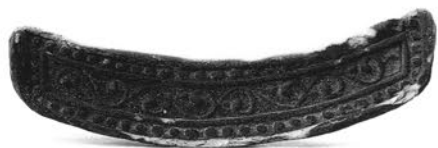


尊勝寺観音堂跡

〔遺跡の概要〕

京都市左京区岡崎の地は平安時代の後期、天皇や貴族によって数多くの御堂や寺院が建立されていました。なかでも、在位中の天皇を願主とする六大寺は「六勝寺」と総称されています。六勝寺のうち堀河天皇を願主とする尊勝寺は、康和4(1102)年に建立されました。この調査では、尊勝寺観音堂跡を検出しました。

尊勝寺観音堂跡は、東西6間(72尺)・南北2間(26尺)の身舎みやの周囲に庇(12尺)と回縁(7尺)を巡らせていたことがわかりました。御堂が建てられた基壇部分には礎石3個が残っていたほか、礎石据付跡を多数検出しました。また、基壇の周囲には配石による雨落ち溝が巡らされていました。この溝は、基壇の南側中央部で南に3尺ほど突出していたことから、この部分に階段があったとおもわれます。遺物としては、金銅製飾り金具と釘が少量出土したほか、多量の瓦が出土しました。



78. 軒平瓦



79. 軒平瓦



80. 軒平瓦



81. 軒平瓦



82. 軒平瓦



83. 軒丸瓦



84. 軒丸瓦



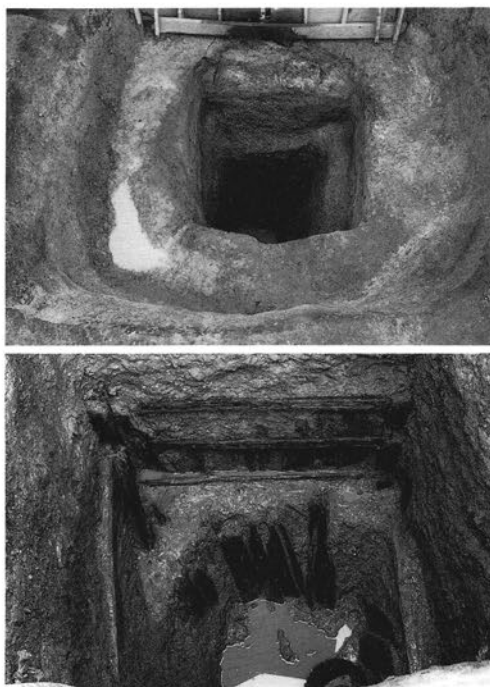
85. 軒丸瓦



86. 軒丸瓦

長岡京跡右京第240次

古墳時代～長岡京期
長岡京市井ノ内



井戸の検出状況



鋤先(井戸内出土)

〔遺跡の概要〕

長岡京は、平城京から平安京へ遷る間の784～794年に、乙訓郡内に置かれた都城です。これまでの発掘調査で、宮殿や役所跡、大路・小路の道路側溝、当時の人々の生活した屋敷跡などが見つかри、短い期間の都城でしたが、かなり整備されていたことがわかってきています。今回の調査は、長岡京の条坊復元によれば右京二条四坊六町にあたる、(長岡京市井ノ内に所在する)府立向日ヶ丘養護学校内で行いました。この調査で、一辺が約6mの隅丸方形で、深さ6m以上の井戸が発見されました。井戸からは、古墳時代後期の遺物と長岡京期の遺物(須恵器・土師器・緑釉陶器・土馬・鉄製鋤先など)が出土しました。この井戸は、方位や出土遺物から長岡京期のもので、長岡京で発見された井戸では最大級の大きさで、相当な有力者や貴族の邸宅に付属したものと考えられます。長岡京の大規模な造営が、西山山麓の近くまでおよんでいたことを示す重要な資料とすることができます。

木津川河床遺跡

弥生時代～江戸時代
八幡市八幡一丁目ほか



木津川河床遺跡調査地全景

〔遺跡の概要〕

木津川河床遺跡は八幡市と京都市にまたがる遺跡で、木津川・宇治川・桂川が合流する付近に位置しています。この遺跡は、昭和57年度以来、当センターが発掘調査を実施してきましたが、今までの調査では主に古墳時代後期集落跡などが確認されています。

昨年度は、弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴住居跡7基と同時代の土器が多数見つかりました。竪穴住居跡は、平面形がすべて方形のもので、床面に炉跡をもつものや、ベッド状遺構を備えるものがあります。廃棄した竪穴住居をゴミ捨て穴に転用したものもあり、竪穴住居跡の埋土のうちの一つの層に土器が集中して出土しました。また、出土した土器の中には、河内地方から持ち運ばれたものもあり、当時の他地域との交流がしのばれるものもあります。

南山城地域にあっては、このような低湿地遺跡で弥生時代の集落跡が確認されたのは今回が初めてであり、この地域の今後の弥生時代研究に欠かすことのできない資料といえます。



芝山遺跡調査地全景

〔遺跡の概要〕

芝山遺跡は、標高30～50mの丘陵上に位置しています。昭和60年度の調査では、古墳時代の墓・竪穴住居跡、飛鳥時代の竪穴住居跡・溝、奈良時代の掘立柱建物跡などを明らかにできました。特に、古墳時代の墓と飛鳥時代の竪穴住居跡が溝を境にして同時に存在していたことは、周辺も含めた地域の歴史を考える上で重要な発見と言えます。

昭和61年度の調査では、古墳時代の墓・溝、奈良時代の掘立柱建物跡・井戸などを確認しました。墓は、周囲に方形の溝が掘られ、溝内には須恵器の甕を埋納した土壇がありました。6世紀初頭に造られたものです。井戸は、ほぼ完全な状態で残っており、平城宮式の軒丸瓦や土器・木製品などが出土しました。当時の生活を解明する手掛りを得たと言えます。このように同じ丘陵内に墓や住居が位置したことは、各々を造る条件に適した土地であったことを物語っています。



87. 土師器・皿



91. 石製の磚



88. 須恵器・有蓋高杯



92. 須恵器・鉢



89. 須恵器・把手のある横瓶



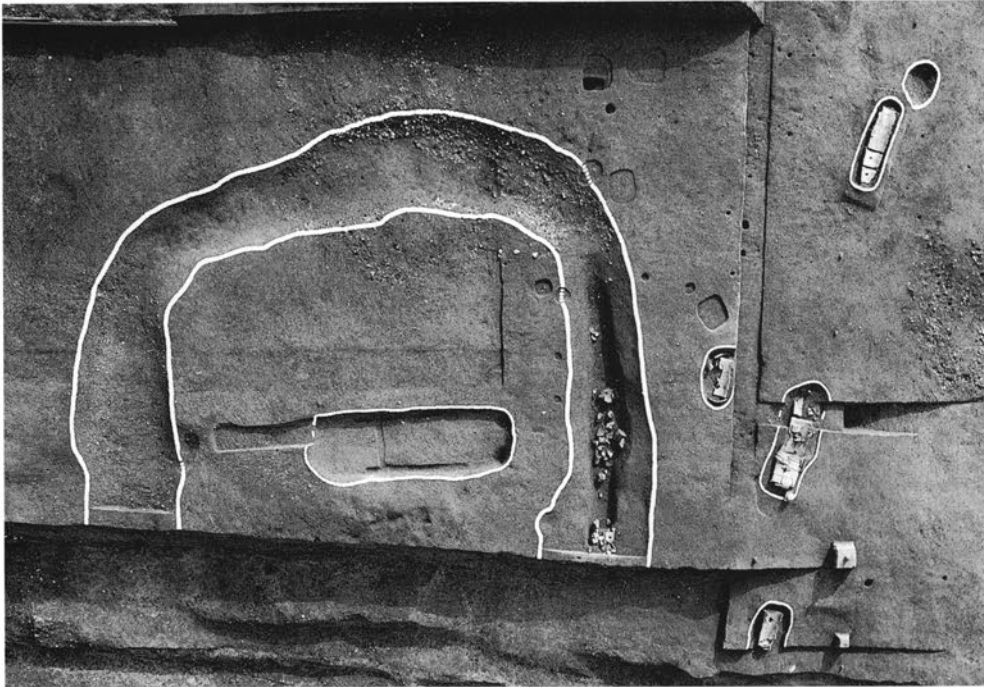
93. 須恵器・壺



90. 須恵器・壺



94. 軒丸瓦



瓦谷遺跡遺構検出状況

〔遺跡の概要〕

瓦谷遺跡は、相楽郡木津町の東部丘陵南西に位置しています。標高 100 m の丘陵から西にむかって開く谷部と小丘陵の先端付近及び、その裾に広がる扇状地に立地し、これまで土師器や須恵器の散布が知られていました。周辺には、瓦谷古墳や西山塚古墳があり、南には上人ヶ平遺跡が隣接しています。さらにその南には、平城宮の大膳職所用瓦窯と考えられる市坂瓦窯があるなど遺跡の密集する地域です。

調査によって、丘陵上では、盛土をあまりもたない古墳を 2 基、埴輪を利用した棺を 4 基、土師器の壺を埋納した遺構 1 基などを検出しました。この調査では、4 世紀にさかのぼる多くの埴輪が出土しました。

その南の谷部では、古墳時代前期の川跡を検出しました。その周囲からは、多くの土器とともに木製の棺の木口板（ちぐい）と考えられる製品などが出土しました。



95. 鋤（未製品）出土状況



96. 木棺小口板（未製品）出土状況



97. 線刻のある埴輪



98. 棺として用いられた埴輪



99. 棺として用いられた埴輪

長岡京跡左京

(向日市教育委員会)

長岡京期

向日市鶏冠井町・上植野町



100. 東二坊大路西側溝と二条条間大路北側溝
の合流地点

101. まつられた馬の骨
102. 金銅製の錠

〔遺跡の概要〕

長岡京跡の調査は、間もなく700回を数えんとしています。その中で、第162次調査は、東二坊大路(朱雀大路から東へ8本目の道路)と二条条間大路(二条大路から北へ2本目の道路)の交差点で行い(写真100)、二条条間大路の北側溝から大量の馬の骨や人の顔を描いた土器(墨書人面土器)を発見しました。ある馬の骨は、ヒヅメから腰・胸・頭までを残し、周囲には墨書人面土器や鉄製の鍬が整然と置かれていました(写真101)。古代、馬は水の神とされており、これらは雨乞いの儀式の跡と考えられます。

第170次調査は、左京の四条二坊十一町と六町間の東二坊坊間小路(朱雀大路から東へ6本目の道路)で行い、その西側溝から、金銅製の錠を発見しました(写真102)。錠は海老錠の胴体部分で、八角柱をしており、表面には宝相華文(ほうそうげもん)と呼ばれる架空の植物の文様が刻まれていました。古代の海老錠の実例は正倉院の中に数多く知られていますが、本例のように文様を彫ったものではなく、極めて珍しい遺品といえます。

かもんでん いしだ
鴨田遺跡・石田遺跡

(向日市教育委員会)

弥生時代
向日市上植野町・森本町



103・104. 弥生時代前期の棺の身と蓋に利用された壺

105. 銅製の鏃

〔遺跡の概要〕

鴨田遺跡は、向日市と長岡京市の市境付近を西から東へ流れていた、旧小畑川おひたがわの南に広がる古墳時代初頭から後半にかけての集落跡です。ところが、昨年の調査で弥生時代前期の墓が一基発見されました。墓は胴長の壺(写真103)と胴膨らみの壺(写真104)の口どうしをあわせた棺を、卵形の穴を掘って埋葬したものです。今回の調査では、これ以外に弥生時代の生活の跡は発見されておらず、墓に葬られた人々がどこに住んでいたのかは明らかにできませんでした。しかし、長岡京市の雲宮遺跡くもみやと向日市鶏冠井遺跡かいてのちょうど中間にあたる鴨田遺跡もまた、乙訓地域に早くから弥生文化を伝えた人々の村であったことが確実となり、今後、地域の弥生文化を研究する上で欠かせない資料となりました。

石田遺跡は、向日市の中央部を北西から南東に流れた旧石田川の流域に形成された縄文時代後期から晩期の集落跡です。ところが、昨年の調査で銅鏃(写真105)が1点発見され、弥生時代の人々の生活の場であった可能性が出てきました。調査地の西には人面土器で有名な森本遺跡があり、2つの遺跡がどのような関係であったのか注目されます。



調査地全景

〔遺跡の概要〕

この遺跡は、長岡京西側の縁辺地にあたる丘陵上に位置し、向日丘陵や東山丘陵、そして南山城一帯が眺望できます。この遺跡は、長岡京跡の右京第 237 次として調査が行われ、発見されたものです。調査の結果、弥生時代後期の竪穴住居跡 7 基、掘立柱建物跡 1 棟、平安時代初期の火葬墓 1 基等が検出されています。

竪穴住居跡は、平面形が方形を呈するもののほか、五角形や円形を呈するものもあります。大半の住居が火災にあっており、焼けた跡が見られます。住居跡内からは、弥生土器のほか、砥石・石鎌・土管状土製品・板状鉄斧・鉄製鋤先等が出土しています。掘立柱建物跡は、竪穴住居に囲まれるような形で検出されました。1 間×3 間の規模で、高床式の倉庫であったと推定されます。

この遺跡は、いわゆる高地性集落と言われるもので、乙訓地域では、向日市の北山遺跡に次ぐ発見です。この遺跡の眼下には、同じ弥生時代の集落跡である長法寺遺跡があり、この遺跡の調査内容とともに注目されます。



調査地全景

〔遺跡の概要〕

今里遺跡は、弥生～室町時代にかけての集落遺跡として知られています。この調査は、長岡京跡の右京第227次調査として実施され、弥生・古墳時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡等が検出されています。

弥生時代の竪穴住居跡は3基確認され、うち1基は1辺約7mを測る大きなものです。また、平面が五角形を呈する住居跡も検出されています。いずれも、弥生時代末期の土器が出土しています。古墳時代の竪穴住居跡は、平面が方形を呈し、7世紀中頃の土器が出土しています。掘立柱建物跡は、この住居跡より古く、柱穴が竪穴住居によって削られているものも見られます。調査地内では計5棟検出されました。重なって検出されたものもありますが、方位を揃え、整然と建てられていました。

検出された掘立柱建物跡群は、比較的規模も大きく、柵列によって画されながら整然と建てられていることや、竪穴住居に先行することなどから、かなりの有力者が住んでいたのでしょうか。

展 示 品 目 録

番号	遺跡名	出品遺物	点数	時代	写真番号	番号	遺跡名	出品遺物	点数	時代	写真番号			
1	高山古墳群	須恵器 杯身・杯蓋	各3	古墳時代・後期	6	7	青野遺跡	弥生土器 広口壺	1	弥生時代・中期				
		" 壺	1	古墳時代・後期	6			" 甕	1	弥生時代・中期				
		" 埴とその蓋	各1	古墳時代・後期	6			鉄剣形磨製石剣	1	弥生時代・中期				
		" 高杯	1	古墳時代・後期	6			石小刀	2	弥生時代・中期				
		" 台付盤	2	古墳時代・後期	6			8	志高遺跡	縄文土器 深鉢破片		11	縄文時代 草創期 ～前期	42・43
		" 匙	1	古墳時代・後期	6					弥生土器 壺		4	弥生時代・中期	40
		" 平瓶	1	古墳時代・後期	6					" 甕		1	弥生時代・中期	40
		" 横瓶	1	古墳時代・後期	6					" 高杯		1	弥生時代・中期	40
		金環	2	古墳時代・後期	1		磨製石剣	1	弥生時代・中期	41				
		玉類 (勾玉、管玉、 切子玉、ガラス玉)	27	古墳時代・後期	2		青磁 椀	2	弥生時代・中期					
2	西小田古墳群	須恵器 杯身	1	古墳時代・後期	12	9	野崎古墳群	円筒埴輪	2	古墳時代・中期 ～後期初頭	50			
		" 匙	2	古墳時代・後期	13・14			家形埴輪	1	"				
		滑石製勾玉	1	古墳時代・後期	11			鏡形土製品	1	"	49			
		弥生土器 把手のある鉢	1	弥生時代・後期	7			馬形土製品	1	"	45			
		" 甕	1	弥生時代・後期	10			動物形土製品	1	"	48			
		" 鉢	1	弥生時代・後期	9			手づくね土器	1	"	44			
		" 器台	1	弥生時代・後期	9		須恵器 埴	2	"	46・47				
3	ゲンギョウの山古墳群	土師器 壺	3	古墳時代・中期	16・17・20	10	栗ヶ丘古墳群	須恵器 杯身・杯蓋	各2	古墳時代・後期	51・52			
		" 高杯	1	古墳時代・中期	15			" 台付長頸壺	1	古墳時代・後期	58			
4	宮の森古墳群	須恵器 杯身・杯蓋	各2	古墳時代・後期	21～24			" 甕	1	古墳時代・後期				
		土師器 杯	1	古墳時代・後期	27			" 提瓶	1	古墳時代・後期				
		" 高杯	1	古墳時代・後期	25			" 横瓶	1	古墳時代・後期				
		玉類	9	古墳時代・後期				" 無蓋高杯	2	古墳時代・後期				
		" 有蓋高杯	各1	古墳時代・後期	54・55	" 匙	1	古墳時代・後期	57					
5	古殿遺跡	土師器 壺	2	古墳時代・前期	31・33・35	11	千代川遺跡 第12次	" 管玉	5	古墳時代・後期				
		" 甕	2	古墳時代・前期	34			" 土玉	251	古墳時代・後期				
		" 高杯	1	古墳時代・前期				土師器 長頸壺	1	古墳時代・後期				
		" 器台	1	古墳時代・前期	32			" 広口壺	1	古墳時代・後期				
		" 台付鉢	1	古墳時代・前期	30			縄文土器 深鉢	1	縄文時代・後期				
		" 手焙り形土器	1	古墳時代・前期				弥生土器 壺	1	弥生時代・後期				
		" 低脚付杯	1	古墳時代・前期	29			" 鉢	1	弥生時代・後期	67			
		" 墨書土器	1	平安時代				土師器 壺	1	古墳時代				
6	谷内遺跡	弥生土器 蓋	1	弥生時代・後期	36			" 甕	1	古墳時代・奈良時代	68			
		" 壺	2	弥生時代・後期				" 高杯	1	古墳時代				
		" 甕	2	弥生時代・後期				" 小型丸底壺	1	古墳時代				
		" 鉢	1	弥生時代・後期	37			須恵器 杯身・杯蓋	各2	古墳時代・奈良時代	59～62			
		" 器台	1	弥生時代・後期	39			土師器 杯	2	奈良時代	63・64			
		木製穂摘具	1	弥生時代・後期	38			墨書土器	3	奈良時代	66			
								石 匙	1	縄文時代	65			
								石 鏝	3	縄文時代				

番号	遺跡名	出品遺物	点数	時代	写真番号	番号	遺跡名	出品遺物	点数	時代	写真番号	
12	平安京跡	緑釉	3	平安時代	69							
		灰釉	2	平安時代								
		白磁	2	平安～鎌倉時代								
		青磁	5	平安～鎌倉時代								
		土師器皿	5	平安～江戸時代								
		高杯	1	平安時代								
		染付大皿	1	明代								
		天目茶碗	1	江戸時代								71
		唐津皿	1	江戸時代								75
		志野菊花皿	1	江戸時代								74
		塩壺	1	江戸時代								
		るつぼ	1	江戸時代								
		ふいご羽口	1	江戸時代								
金箔瓦	1	江戸時代	76									
軒丸瓦	1	平安時代	77									
13	尊勝寺跡	軒丸瓦	5	平安時代	83～86							
		軒平瓦	5	平安時代	78～82							
14	長岡京跡右京第240次	土師器 甕	1	長岡京期								
		須恵器	1	長岡京期								
		鉄製鋤先	1	長岡京期								
		土馬	1	長岡京期								
15	木津川河床遺跡	土師器 壺	2	古墳時代・前期								
		" 甕	2	古墳時代・前期								
		" 高杯	1	古墳時代・前期								
16	芝山遺跡	須恵器 甕	1	古墳時代	89							
		" 横瓶	1	古墳時代								
		" 平瓶	1	古墳時代								
		" 壺	1	奈良時代								93
		灰釉陶器長頸壺	1	奈良時代								
		土師器 皿	2	飛鳥～奈良時代								87
		" 甕	1	古墳時代								
		" 埴	1	古墳時代								
		軒丸瓦	1	奈良時代								94
		石突(鉄器)	1	奈良時代								
		刀子(鉄器)	1	古墳時代								
磚	1	奈良時代	91									
17	瓦谷遺跡	土師器 壺	1	古墳時代・前期	98・99							
		" 甕	1	古墳時代・前期								
		" 高杯	1	古墳時代・前期								
		" 埴輪棺	2	古墳時代・前期								
		線刻のある埴輪	2	古墳時代・前期								97
		同心円文のある埴輪	2	古墳時代・前期								

以上、(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター出品。

考 古 展

第6回「小さな展覧会」

—昭和61年度発掘調査の成果から—

昭和62年8月22日(土)～9月6日(日)

発 行 (財) 京都府埋蔵文化財調査研究
センター

〒617 向日市寺戸町南垣内40番の3
TEL (075) 933-3877 (代)

印 刷 (有) 関 西 プ ロ セ ス

〒615 京都市右京区山ノ内山ノ下町13
TEL (075) 312-3161 (代)



主 催 財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター
協 賛 向 日 市 文 化 資 料 館
後 援 京 都 府 教 育 委 員 会

1987・8・22(土)～9・6(日)